

共同助成(福島県遊技業協同組合連合会)

「自然体験を通じた子どもの交流・ふくしまの担い手育成」事業

外遊びができない状況の子どもを含め自由に遊べて主体的に参加できる自然体験を提供

東日本大震災や原発事故の影響で外遊びが制限される中、福島県内で自由に自然体験ができる場所が西会津町。その地で、自然の中で思い切り羽を伸ばし、子どもたちに仲間づくりや共同生活の楽しさを提供しようと取り組んでいる団体が、子どもたちの自主性を重んじる「自遊学キャンプ」を実施した。



西会津町近辺でキャンプを開催



遊ぶだけでなく自主性も育むプログラムを実施

非日常的な環境の中での自然体験を通じて仲間づくりや共同活動の楽しさを体験

「学校に行く子も行かない子も、同じように認められる社会の実現」をミッションとして、意欲的に社会に参加できる大人へと成長することを支援する目的で、1999年に福島県会津若松市で任意団体として設立し、2001年、NPO法人化された「NPO法人寺子屋方丈舎」。現在、フリースクール事業、環境教育事業、放課後居場所事業、通信制高校事業、子ども食堂事業などを行っているが、環境教育事業の一環として、2017年度にAJOSCと福島県遊技業協同組合連合会の共同助成を受け、「自遊学キャンプ」を実施した。

「このキャンプ自体は2012年から実施しているものですが、東日本大震災と福島第一原発の事故を受け、福島県内では自然体験ができる場所が限られるようになりました。

可能な場所の一つが西会津町近辺です。また、ここ数年、いじめや貧困問題などを含め、学校内外の課題が目立ってきました。それによって、子どもたちはかなりのストレスを感じています。自遊学キャンプを通じて子どもたちに思い切り自然体験してもらいながら、非日常的な環境の中で学校外での仲間づくりや共同で活動することの楽しさを味わってほしいという思いで、この事業を続けています」

この事業の目的について、寺子屋方丈舎の理事で自遊学キャンプを担当する蓮沼周平さんは、そう話す。2017年度は7月から3月にかけて、2泊3日5回、3泊4日8回の合計13回、にしあいづ自遊楽校(旧西会津町奥川保育所)を会場に実施され、3~4年生の小学生を中心に278名の参加者があった。参加者はいわき市や郡山市に住む子どもたちが多く、中には大震災や原発事故による被災者や避難者も含まれているという。

ミーティング、遊び、感想の共有を通じて子どもたちに主体性や共生感覚を育む

自遊学キャンプは宿泊型の自然体験プログラムだが、具体的には、夏は山登りや川遊び、秋は自然素材を使った工作や農業体験、冬は雪遊びなどの地域資源を利用した遊びなどを行うもので、料理などの日常生活も含め、参加した子どもたちがみんなで相談しながら主体的に取り組むことになっている。

まず、「子どもミーティング」があり、そこでやりたい遊びについて意見を出し合い、それをもとに子ども同士で遊びの計画を立てる。その後を決めた遊びを協力しながら実行するが、変更が必要なときは、また意見を出し合いながら変えることもできる。さらに、遊びの中で上手くいったこと、ダメだったことなど、お互いの気持ちを出し合う「ふりかえり感想シェア」がある。自分の気持ちを伝え、相談することで、自然なかたちで子ども同士のコミュニケーションが活発に行われ、友だちがしやすい雰囲気が出来上がっていくという。

募集チラシを作成し、学校を通じて配布するほか、一部はDMによる発送も行う。各回20名を目途に参加者を募集するが、約40%はリピーターだというから、その人気ぶりがうかがえる。実施にあたっては、毎回、寺子屋方丈舎のスタッフ2名のほか、学生、高校生、社会人のボランティアが3~4名という態勢を組み、子どもたちをサポートする。参加した子どもの保護者からは、「自分たちで話し合っ決めて決めるというやり方がとても気に入ったよう」「自分なりにアピールして、初めて会う人とコミュニケーションをとって仲よく過ごせたことに自信が持てたよう」「また参加したいと、次を楽しみにしている」といった感想が多く寄せられている。

福島県遊技業協同組合連合会より

子どもたちが福島県自然の中で思いっきり遊びながら、自主性や協調性を育む事業に賛同し助成しました。今後も活動の広がりを期待しています。



雪遊びが楽しめる冬キャンプの募集チラシ



大自然の中、子どもたちは思いっきり遊んだ

助成団体: 特定非営利活動法人 寺子屋方丈舎

<https://www.terakoyahoujyousha.com>



自然の中でしか解消できないものがあると実感しています

東日本大震災後に子どもたちの自然体験の重要性がより増す中で、活動資金の確保などの問題から子ども向けの活動を続ける団体が減ってきています。今回、助成を受けたことで、参加費を抑えることができましたし、運営面でも助かりました。キャンプに参加した子どもたちの中から、将来的にボランティアとして参加してくれる子どもが出てくれることが夢です。

NPO法人 寺子屋方丈舎
理事 蓮沼周平さん